



Kaselehlie

rahn lap

September-04



ミクロネシア連邦と日本の繋がり

こんにちは。ミクロネシア連邦、ポンペイ州、アワック小学校で小学校教育という職種で青年海外協力隊として派遣されている小林未季と言います。少しずつ無理なく通信を続けています。ミクロネシア連邦は、日本と深い繋がりがあります。それは戦争の時代まで遡ります。第一次対戦後、日本は勝利国としてここを統治下に置いていました。戦争下ということやこの場所が太平洋戦争の要所であったことから多くの砲台が作られました。私のいるポンペイ州にはソケースマウンテンという山があり、そこには、今でも旧日本軍の砲台が多く残されています。

また、この期間たくさんの日本人が移住し、日本人のための学校や工場が建てられ、現地の人々へも日本語教育がなされました。ホームステイ先のお母さんは「私のおじいさんは日本人で、お父さんも日本語がとても上手でよく歌を歌ってくれたのよ」と唱歌を聞かせてくれたこともありました。現地語にも、今でも日本語がそのまま残っていたり、似た意味の言葉が使われていたりもします。ちなみに、そのまま使われている言葉は「ソーリ（草履）」「おんぶ」「じゃんけんぽん」「よーいどん」など。当時から野球が盛んだっただけで野球の言葉は面白く、野球はもちろん「やきゅう」。盗塁のことを「すべったころんだ」、ヒットを「いないとこ」と言ったりもするそうです。私もまだまだ聞き齧った程度。また、このお話ができるように調べたり、話を聞いたりして繋がりを見つけていきます。



【ポンペイ島を自慢します・ ナンマドール遺跡】

私の住むポンペイ島には、世界遺産があります。その名も、ナンマドール遺跡。ナンマドール遺跡は、このポンペイ州に残る人工島の総称で、遺跡の規模は、大洋州最大とさえ言われています。コロンビア市と呼ばれる都市からは車と徒歩で2時間ほど。干潮の時を狙って、海を歩いて進んだところに遺跡があります。この遺跡は、玄武岩という岩で作られているそうなのですが、この地域にその時代にあった石とは違うのだとか。どの様にして大きな石たちが運ばれたのか、どの様にして作られたのか…謎多き遺跡だそう。

